

女性の生きかたを考える講座

「女性のライフデザイン学」

この講座では、“ひとりの大人として学ぶ時間”“仲間とともに学ぶ時間”を大切に、女性が生きていくときに向き合うさまざまな課題について話し合いを重ねました。講座終了後も、共に学び合った仲間として活動を続けています。

今回は参加者の清水文佳さんに、講座の感想を書いていただきました。

国立市に住んで7年が過ぎた。こんなにも公民館に通い、利用したのは今年が初めてだった。きっかけは「女性のライフデザイン学」の講座に申し込んだからだ。週1回、全12回の講座だった。魅力的なのは、講座の内容もさることながら、保育付きだったこと。私には第3子となる1歳児（講座開始時）がいる。日々、子育てに追われ、母となってからは自分の為の学習時間の確保など皆無に近い日常を過ごしていた。もともと講義を聴いたり、学習することが好きだったので迷わず申し込んだ。

講座では、まず公民館の歴史と保育室について知ることから始まった。今でこそ、女性も男性と変わりなく勉学に勤しみ、女性の社会進出が当たり前であるが、昔の女性たち（母親たち）が公民館などに集まり、話し合い、いい町にしたいと力を注いできた背景があることを知った。昔の人たちの思いが形となり今も引き継がれていることに尊敬と感謝の念を抱かずにはいられない。



この2時間を大切に

また、公民館に保育室があるとすることも今回初めて知った。保育が必要な立場になって初めて気づくのだが、世の中には子どもと一緒にでは受けられない講座があったり、たとえ同伴できたとしても自分自身もなかなか集中できるものではない。保育付きの有難みがあることに改めて気づいた。こちらの保育室の歴史もまた古く、保育付き講座の先駆けだ。保育室を利用して公民館活動を行い、育つていく母親たちを支援してくれている。母だけでなく、子どももまた保育室で育っていくという話を伺い、あずけるといふことに若干の罪悪感が無きにしても非ずだった私には背中を押してもらえた心地だった。

来年度、保育を希望するグループはお知らせください

公民館で活動している市民グループに継続的に参加する
場合に限り、活動時間中に公民館の保育室で保育を行います。
来年度（2018年4月～）保育を希望するグループ、考えているグループは1月末までに公民館へお知らせください。

〈開室時間〉
火曜日～金曜日 午前10時～12時
午後2時～4時
土曜日 午前10時～12時



〈要件〉 国立市内在住の学齢前の子ども。毎週火曜日、毎週水曜日というように定期的に通えること。

* 詳細は公民館へお問い合わせください。 ☎ (572) 5141

地域で日本語支援をしたい人のための 日本語教育入門

地域で日本語を学んでいる外国人にルーツのある方々に、日本語を教えてみたいと考えている方のための講座です。日本語を教える際に必要なことを、理論・実践の両方から学んでいきます。(全8回)
※講座終了後に、日本語サポートボランティアに参加することもできます。

- ◆総論篇：1月9日(火)
～地域の日本語ボランティアの役割とは～
講師：林川 玲子 (東京日本語ボランティア・ネットワーク)
 - ◆体験篇：1月16日(火)
～日本語学習者の気持ちになってみよう～
講師：ムラドリ アイダン (一橋大学 言語社会研究科)
 - ◆理論篇：1月23日、30日、2月6日(火)
～日本語教育のための文法事項や文型について～
講師：庵 功雄 (一橋大学・日本語教育)
 - ◆実践篇：2月13日、20日、27日(火)
～地域日本語教室の現状理解と実践演習～
講師：志村 ゆかり (東京経済大学・日本語教育)
- 時間 いずれも火曜日、夜7時～9時 (全8回)
定員 25名(先着順)
*全回参加できる方を優先します。
ところ 公民館 3階集会室
費用 テキスト代実費 *2,200円程度
([にほんごこれだけ! 1・2] ココ出版)
申込先 12月12日(火) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

生活のための日本語講座 学習者・ボランティアの声

公民館では、毎週火～木曜日の午前中と火曜日の夜に、外国にルーツをもつ市民向けの日本語講座を行っています。また、その後の時間では市民のボランティアが日本語学習者の学習のサポートを行う時間もあります。そこに参加する学習者と昨年度日本語教育入門を受講し、ボランティア活動を始めた方々に、日頃の学習の感想を寄せていただきました。



授業中は
笑いが生まれることも……

日本語教育入門 参加者の声
E. K
外国人と日本語で話す際の分りやすい伝え方を学びたいと思っていた矢先に、本講座は絶好の機会となりました。全体は4部構成で、はじめに総論篇で地域にお

ける日本語ボランティア活動の立ち上げから現在までの歴史を学び、体験篇では日本語を一切使用せず、アゼルバイジャン語の初歩を学ぶ体験を通して日本語学習者の気持ちを知るというスリリングな体験がありました。そして理論篇は庵先生による「やさしい日本語」の講義でした。多文化共生社会にならざるを得ない社会情勢のなかで、外国人にとって学びやすい日本語教授方法は何かという目から鱗がおちる内容でした。志村先生の実践篇では、種々の教材を用いた個人・グループのワークを通じて、ボランティアと学習者が楽しく会話を進める心構えや方法、そして学習者にとって地域の居場所を作

る大切さを教えていただきました。毎回、熱意あふれる先生方の講義や熱心に取り組む受講生の皆さんの姿に刺激を受け、とても充実した講座でした。
さらに、最終回は公民館で活動する日本語ボランティアグループ代表の方より、活動の紹介があり、実地見学させていただきました。活動への参加は、私にとって高い壁でしたが、お試して学習者との会話に参加させてもらった際に、「日本語難しい。まだわからない」という学習者の一言が私の背中を押してくれました。「わか

現在の、会話が通じたときの喜びや言葉・異文化への興味を原動力として、活動に参加しています。学習者と楽しく会話しながら「わからない」への私なりのサポートができたらと願っています。振り返ると日本語ボランティアの活動は、私にとっても大切な居場所の一つとなっていました。
Y. M
日本語教育を体験して



日本語学習者の気持ちを体験

日本語ボランティアに参加して

A. N

子どもたちも手を離れ、何か私にもできることがあるだろうかと思っていた時に、公民館だよりの「日本語教育入門」の案内記事を見つけました。勉強なんて本当に久しぶりで不安でしたが、2か月の講座を頑張ってみようと思いついて申し込みました。

講座は毎回熱気があり、今まであまり深く考えていなかった「日本語」や「日本語学習者を取り巻く現状」などいろいろな事につ

初めて日本に来て生活を始めると、外国人として困難が多かった。知ってる人もあまりいないし、日本語が下手だから日本の生活は一日一日が挑戦の連続だった。そうした時知り合いから公民館の日本語講座を紹介された。私のように日本に初めて来て生活する人たちや日本に長く住んでいるが、日本語教育をちゃんと受けられず、日本語が下手な外国人たちに非常によいプ



授業の後も
集中して取り組みます

ログラムだった。日本語の授業を終えた後、日本人と会話することが出来るボランティアの時間もあつて個人的な授業指導や日本の生活で困難なことも助けてもらうこともできた。

カテリーナミタ Kateryna Mita (ウクライナ)

私の名前はカテリーナです。一年前にウクライナから来ました。今は国立に住んでいます。国立はべんりな街です。家のそばに何でもあります。

一年ぐらい公民館で日本語を勉強しています。みんな優しい人たちです。今年はずっと勉強するのは楽しいです。ボランティアの人たちは、日本語と生活でわからないことをいろいろ教えてください。



それぞれの国の違いを
話してみたり……

初めて来たとき、あまり話せませんでした。日本語講座のおかげで、一年ぐらい公民館で日本語を勉強しています。みんな優しい人たちです。今年はずっと勉強するのは楽しいです。ボランティアの人たちは、日本語と生活でわからないことをいろいろ教えてください。

初めて日本を旅行した時のことを、今でもはっきり覚えています。大阪から京都へと旅行し、日本の美しさを感じました。そして思いました、もし私がアメリカに住まないと、日本に住みたい。なんと不思議なことに、私はアメリカと日本を23回行き来し、今は国立に住んでいます。毎日夢のような生活です。息子と私は日本で学んでいます。また、私たちは日本のテレビにも出演し始めています。息子は、大きくなったらパパのような俳優になりたいそうです。なんてうれしいことでしょうか。そして、私は人生をかけて、公民館で日本語を学んでいます。授業中は勿論、その前後も、私はいつも遊び、幸福、そして祝福を感じ

私の人生は、まるで虹の上を歩いているようです。私はアメリカで育ちました。高校卒業後、ニューヨークへ移り、プロのバレエダンサーとして、またブロードウェイの俳優、歌手、ダンサーとして働いてきました。初めて日本を旅行した時のことを、今でもはっきり覚えています。大阪から京都へと旅行し、日本の美しさを感じました。そして思いました、もし私がアメリカに住まないと、日本に住みたい。なんと不思議なことに、私はアメリカと日本を23回行き来し、今は国立に住んでいます。毎日夢のような生活です。息子と私は日本で学んでいます。また、私たちは日本のテレビにも出演し始めています。息子は、大きくなったらパパのような俳優になりたいそうです。なんてうれしいことでしょうか。そして、私は人生をかけて、公民館で日本語を学んでいます。授業中は勿論、その前後も、私はいつも遊び、幸福、そして祝福を感じ

じると同時に、悲しみ、イライラ、孤独感、嫉妬、混乱、そして愚かさも感じています。私が受けてきた教育には、日本で役立つことは何も含まれていなかった。ひらがな、カタカナ、漢字といったとても多くの文字に混乱します。そして、子育てと勉強を両立する難しさも感じています。また、アメリカではリーダーとしてみんなの先をいたのですが、日本語講座では、クラスメイトと比べ、自分がかんり遅れ、悲しいです。私はクラスで唯一のアメリカ人で、日本に住むアメリカ人の友人は一人だけで、孤独を感じたりします。今まで高い教育を受けてきました。全くと違う日本語やその文化を理解するのに時間がかかり、だんだん自信もなくなります。だから、授業は私にとってありがたいものであると同時に、戦いでもありです。私は日本にいられることに感謝していますし、公民館で日本語を学べてうれしいです。日本語で流暢に会話できること、そして日本語の多くの知識を身につけることを心から願っています。でも一番大事なことは、良い父であり、良い夫であり、すばらしいアーティストであり、良い生徒であることです。これからもがんばります。(英文より翻訳)

平安の気象予報士 (文学と社会) 紫式部の暗号

講師 石井 和子 (フリーアナウンサー、気象予報士、日本気象予報士会顧問)

古くから読まれ、広く親しまれている『源氏物語』。平安時代中期に成立した長編物語で、主人公である光源氏を通して、当時の貴族社会の権力闘争、恋愛、栄光や没落などを描いている作品です。

今回は、この源氏物語を気象の切り口で捉えてみます。山や川、日々の天気や四季折々の風や光、雨、しぐれ……紫式部が気象の描写に込めた意図や思いを読み解き、はるか千年を超えて現代に届けられたメッセージを考えてみませんか。

とき 1月12日(金) 昼2時~4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 35名(申込先着順)
申込先 12月12日(火) 朝9時~ 公民館 ☎ (572) 5141



演出 高畑勲 脚本 深沢一夫 作画監督 大塚康生
音楽 間宮芳生 原画 宮崎駿
声の出演 市原悦子、平幹二郎、大方斐紗子、三島雅夫、横内正、東野英治郎 ほか



冬の魔王グルンワルドの脅威にさらされる北国の村を救うため、少年ホルスが太陽の剣を手に立ち上がる!

深沢一夫の戯曲「チキサニの太陽」をもとに、若き日の高畑勲、宮崎駿ら、後の日本アニメ界を支えることになるスタッフが「人間の団結」というテーマに挑んだ日本アニメ史上に残る名作。善悪二つの心の間で揺れるヒロインで魔王の妹・ヒルダ(声は市原悦子が好演)の人間的魅力が観客の心を掴み、当時、熱狂的なファンを生んだ。

とき 12月24日(日) 昼2時~(開場1時)
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

くにたちブッククラブ 世界の軌む音を聞く 中村文則『掬摸』(河出文庫)

講師 榎本 正樹 (現代日本文学)

とき 12月14日(木) 夜7時~9時
ところ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎ (572) 5141
*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

哲学講座

『日本精神史』を振り返る

講師 長谷川 宏 (哲学者)

今年も年明けから哲学講座が始まります。この講座では、哲学者の長谷川宏さんを講師に迎え、様々なテキストを参加者のみなさんと共に読み、深めていきます。これまで哲学講座では、『自由論』『ハムレット』『リア王』『徒然草』といった作品を読んできました。

今回は、一昨年度と昨年度で取り上げた長谷川さんの著書『日本精神史(上・下)』を振り返ります。『日本精神史』は、構想執筆20年、1000ページを超える大作です。初回は、過去2年間の講座でまだ取り上げていない章にふれ、その後は参加者の方々の希望を聞きながら進める予定です。新しい年のスタートに、縄文時代の三内丸山遺跡から江戸時代の四谷怪談まで、日本の「精神」の流れを一緒に辿ってみませんか。

長谷川さんの著訳書

ヘーゲル『精神現象学』(作品社)の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞受賞。『高校生のための哲学入門』(筑摩書房)、『ことばをめぐる哲学の冒険』(毎日新聞社)、『双書哲学塾 生活を哲学する』(岩波書店)、『ちいさな哲学』(春風社)等多数。

※テキストの『日本精神史(上・下)』(講談社)をご用意ください

とき 1月13日~2月10日(全5回) 毎週土曜日、昼2時~4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 27名(申込先着順、原則全回出席できる方)
*定員超過の場合、市内在住者優先。ただし、定員に達しない場合は市外在住者も参加可能。
申込先 12月9日(土) 朝9時~ 公民館 ☎ (572) 5141



学びました。また日本語ボランティアの役割として「教える」とことは別に「隣人のお手伝い」という目線で日本語学習者に寄り添うことを学んだのは、日本語以外の言語を話すことができず、日本語教師の勉強もしたことがない私にとって大きな励みになりました。ボランティアとして活動して数か月ですが、毎回先輩ボランティアからサポートを受けながらなんとか学習者と話しています。学習者はいろいろな国から来ていて、これまで10ヶ国近い国の学習者とお話しました。名前しか知らなかった国を世界地図を開きながら探し、その国について話を聞くことは本当に毎回勉強になります。普段何気なく使っている日本語を学習者へ伝えることは難しく、悩んだり、自分の力の無さを思い知る日々でもあります。それ以上に学習者から学ぶことも多く、「学びたい」「話したい」という熱意に励まされ元気をもらっています。私にできる範囲で少しでも学習者のお手伝いを続けていけたらと思っています。

今年度の日本語教育入門の案内は3ページにあります。是非ご参加ください。

哲学講座参加者の声

哲学講座は古今の作品を一冊とりあげ講師と共に読み、その作品や著者について講師から話を伺ったうえで、参加者に意見や感想を述べてもらい、よりその内容を深めています。今回は過去2年間に渡り参加された宮崎さんに感想を書いていただきました。今年度も年明けから、哲学講座がはじまります。左ページに案内がありますので、是非ご参加ください。

哲学講座に参加して 宮崎 徹

国立に住んでほぼ30年になりましたが、公民館の催しに参加したのは、恥ずかしながら今回が初めてです。時々、この「公民館だより」をチラッと眺め、いろいろやっているなという程度の関心しか持ち合わせていませんでした。ところが、ある時長谷川宏先生が「哲学講座」でご自身の「日本精神史」をテキストとしてお話をしてくださるといふ案内記事が目についたので申し込みました。これは千載一遇のチャンスと応募し、運よく16、17年と連続で参加できました。これまで先生のご本は文庫本のエッセーのようなものしか読んだことはなかったのですが、今回の上下2冊1000ページを超える力作は、書店で手にとってみてもぜひ読んでみたいと思っていました。長らく西欧の哲学を研究されてきた方が日本の精神史を書かれたということに意表を突かれただけではなく、20年にわたって取り組まれた成果だという重みを感じました。しかし、この大著の文章は大変わかりやすく、問題の切り口や説き方は明晰です。軽やかといっても良いくらいだと思います。

先生によれば、精神とは個人や集団の生きる力と生きる姿のことであり、その連続と変化のさまを大きな流れとして把握することが課題です。やや具体的には、美術、思想、文学が題材とされ、それらへのパースペクティブ(視座)としてはそれぞれの作品などに見て取れる宗教意識、歴史意識、倫理意識、美意識へ注意が喚起されます。第1章の縄文時代の三内丸山遺跡から最終第35章の鶴屋南北『東海道四谷怪談』まで、興味深く、精神史にびたりとくるテーマが取り上げられています。講座の回数に限られていて、すべての章が取り上げられたわけではありませんが、各回ごとにその背景や意味を、文章にも増してわかりやすく話していただきました。本来なら難しいな議論になりがちなたまらなテーマであっても、先生が醸し出されている優しさが楽しい時間になっているように感じました。また、多くの参加者が熱心に事前の勉強を重ねているようにお見受けし、また積極的に議論されるのに驚きました。なかには文字通り口角泡を飛ばす、あるいは机を叩きながらという方もおられ、圧倒されました。

今年度も「哲学講座」の募集が始まります。詳細は5ページの案内をご覧ください。



長谷川宏さんを囲んで

動が盛んだったようです。ところが、今では公共施設なのに住民の会合やイベントが自由にもちろく自治体が増えていると指摘されます。しかし、住民が集まって学びあったり、議論する場を確保しておくことは民主主義の活性化のために大切ではないでしょうか。今回改めてその感を強くしました。人々の意見が応答する、いわば公共の広場のようなものがあちこちにできれば、昨今しきりにいわれる社会の閉塞感に少しは風穴を開けられるかもしれません。

「大極楽サークル」会員募集
ゆつくりとした動きの武術である太極拳は、健康・美容に効果が...



ひろば

(8ページにもあります)

「くにたち音楽祭」出演団体募集
第43回くにたち音楽祭(来年6月10日、くにたち芸小ホール)に...

社交ダンス アイリス会員募集
発足したばかりのサークルですがプロ講師の元でしっかりステップを覚えていきたいと思...

みんなで話そう公民館講座
—市民と職員で「学び」をふりかえる会—

公民館で実施してきた主催講座を職員と市民が共にふりかえる初めての試みです。今回は4つの講座を事例として...

この「ふりかえる会」は、今期(第31期)の公民館運営審議会(公運審)が、第30期の答申「国立市公民館の事業評価のあり方について」で示された提案の一つ「公民館活動をふりかえる会—公民館研究集会の取り組み—」の具体化を館長より提案され、公運審が実施・運営について検討してきたものです。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

- ふりかえる公民館講座
・くにたちブッククラブ(文学講座)
・ふれあいひろば(世代間交流事業)
・認知症とともに生きる(認知症映画会)
・市制施行50周年記念事業(公民館企画・学長対談)

とき 1月7日(日) 昼2時~5時
ところ 公民館 地下ホール 定員 40名
*申し込みは不要です。ご自由においでください。
企画・運営 第31期国立市公民館運営審議会

第54回東京都公民館研究大会
東京の公民館の未来
~持続可能な地域、次世代の学びに向けて~

国立市公民館も加盟する東京都公民館連絡協議会主催の研究大会が開催されます。

今年度は、午前は基調講演、午後は下記4つの課題別集會に分かれて東京の公民館に関わる英知を結びます。持続可能な地域社会、次世代の学びに向けて、時代に求められる公民館の役割や未来の姿を考えたいと思います。

■基調講演 高尾 戸美さん
(日本サイエンスコミュニケーション協会理事、合同会社マーブルワークショップ代表)

- 4つの課題別集會
①公民館がまちを創る ~公民館が生み出す「地域」~
②公民館の価値をみつめなおす ~住民とともに公民館を「評価」する実践~
③公民館としての魅力ある講座とは
④地域と公民館を結びつける地域学習を考える

*どなたでもご参加できます。お気軽にお問い合わせください。詳細は公民館にある大会開催要項をご覧ください。

とき 2月3日(土) 朝10時~夕4時
ところ 狛江市民ホール(エコルマホール) ほか
参加費 1,000円
申込・問合先 公民館 ☎(572) 5141

くにたち野鳥観察

講師 佐伯 元行(国立あおとり保育園 園長)
中島 徹也(くにたち探鳥会)

冬は木々の葉が落ち、野鳥観察に最適の季節です。12月は座学でスライドを見ながら解説してもらいます。1月は城山周辺、2月は多摩川周辺で野鳥観察を行います。是非3回続けてご参加ください。皆さんと一緒にくにたちの鳥を観察してみましょう。(1回だけの参加も可)
*今回は12月と1月の募集をします。

- ◆第1回 12月17日(日) 朝10時~12時頃
郷土文化館(講義のみ)
◆第2回 1月14日(日) 朝9時30分~12時頃
城山周辺(観察会)
◆第3回 2月18日(日) 朝9時30分~12時頃
多摩川周辺(観察会)

集合・解散 第1回、2回 郷土文化館
第3回 南区公会堂前
持ち物 筆記用具、お持ちの方は野鳥図鑑、双眼鏡等
定員 各回15名(申込先着順)
*観察会が雨天の場合は3月4日(日)に順延します。
申込先 12月7日(木) 朝9時~
公民館 ☎(572) 5141

「わたしのワークライフバランスと「働き方改革」」
なぜ、残業はなくなるのか
~働きすぎ社会の処方箋~

講師 常見 陽平(働き方評論家、千葉商科大学)

2016年9月に労災認定された「電通過労自死事件」。この事件により、長時間労働の是正に関して世論が動きました。いわゆる「残業」は、日本の企業全体の問題として社会問題化したといえます。現在、政府が進める「働き方改革」でも、長時間労働に対する規制を強化することが検討されています。

しかし、今回お招きする常見さんは、「日本の労働現場は残業しなければならないように設計されている」と指摘します。常見さん自身が、一橋大学を卒業後、15年間の会社員時代には長時間労働を、フリーランス時代には柔軟な働き方を経験してきました。そうした経験をもとに労働社会学を研究してきた立場から、残業問題の本質、「働き方改革」の課題、「働きすぎ社会の処方箋」について、お話を伺います。

〈常見さんの著書〉
表題作(祥伝社)の他、『働き方改革の不都合な真実』(共著、イーストプレス)等。

とき 1月14日(日) 朝10時~12時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)
申込先 12月8日(金) 朝9時~
公民館 ☎(572) 5141

はじめての銅版画

講師 山本 佳奈枝(銅版画家)
さかた きよこ(銅版画家)

興味はあるけど、難しそう? どうやって作るのかな? そんな疑問に応えながら銅版画創作を楽しむ、初心者向けのワークショップです。銅版画ならではの繊細な線で小さな作品を作ります。集まった仲間とともに作業の時間を楽しみながら、作品を創ってみませんか。出来上がった作品はロビーで展示する予定です。

銅版画(エッチング)とは、銅板に描いた絵を腐蝕させて版を作り、できた凹部にインクを詰めて紙をのせ、プレス機で刷って作る版画です。



作品ができました!

インクをつめて……

プレス機で刷っています

出来上がりは
どうかな?

とき 1月21日、2月4日、18日、3月4日
いずれも日曜日 昼2時~5時
ところ 公民館 3階実習室
定員 10名(申込先着順)
対象 原則休まずに出席できる方
市内在住、在学、在勤、はじめて参加する方を優先します。
材料費 1,000円(ニードル、銅板、版画紙など)
持ち物 8x10cmの下絵(タテヨコ自由)
エプロン(よごれてもよい服装)、筆記用具
申込先 12月16日(土) 朝9時~
公民館 ☎(572) 5141



冬の到来!!
田中 法雄(くにたち写真遊会)

公民館運営審議会報告

11月14日(火) 第13回定例会を開催。委員13名、館長、職員1名が出席。傍聴1名。
前会議事録確認
報告事項
○公民館だより編集研究委員会
10月号11月号について報告。11月号の講座参加者の声のなかで「子どもの貧困の現在」の記事で重要部分を強調した表記や「人間の性質」の改良の思想の記事の適時性が好評。公民館が学びの場であることの理解促進必要との指摘。
○社会教育委員の会
10月23日(月) 第6回定例会を開催。前期答申をふまえて生涯学習振興・推進計画に関する他市の事例を検討した旨の報告。先進的取り組みとして横浜市の司書職人

協議事項

第30期答申の公民館活動をふりかえる会の実施に向け、世話人会より公民館だより原稿最終案とふりかえる会の目的および観念の提案があった。会の目的は公民館事業をよりよくするためであることを確認した。主催講座をふりかえる際の観念は、公運審と職員の方々が提起する方針を確認し、内容と表現については12月12日(火)夜7時15分から、傍聴歓迎。(鈴木)

今月の公民館 (12、1月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 14日(木) 夜~くにたちブッククラブ
中村文則『掏摸』
- 17日(日) 朝~くにたち野鳥観察
- 24日(日) 昼*シネボックスCINEVOX公民館映画会
『太陽の王子ホルスの大冒険』
- 1月7日(日) 昼*みんなで話そう公民館講座
—市民と職員で「学び」をふりかえる会—
- 9日(火) 夜~地域で日本語支援をしたい人の
ための日本語教育入門
- 12日(金) 昼 文学と社会
平安の気象予報士 紫式部の暗号
- 13日(土) 昼~哲学講座
『日本精神史』を振り返る
- 14日(日) 朝 わたしのワークライフバランスと
「働き方改革」
なぜ、残業はなくなるのか
- 21日(日) 昼~はじめての銅版画

ひろば

(7ページにもあります)



第45回元旦マラソンお知らせ

参加種目10km、5km、3km 参加資格小学生以上健康な男女。参加費高校生以上500円、中学生300円小学生無料。当日受付徴収。午前10時スタート。

日時 元旦朝9時迄に集合。

場所 多摩川河川敷グラウンド

連絡先 立石090(8331) 7095

講演会「弁護士が経済を語り、エコノミストが憲法を語る」

元日弁連会長の宇都宮健児さんと国立市民でエコノミストの山家悠紀夫さんにお話を伺います。ぜひご参加下さい。主催実行委員会

日時 12月16日(土) 昼12時

場所 公民館 地下ホール

連絡先 上村090(1814) 8371

ポークイースカウト餅つき体験会!!

▼年長児/小学5年生男女対象
▼費用:300円(保険料を含む) 12/29迄にお申込みの上、保護者同伴でご参加下さい。国立第2団

日時 1月7日(日) 朝10時~12時

場所 市内の集会所(予定)

連絡先 大島(575) 3466

chie-pion-0917@docomo.ne.jp

「ひろば」欄投稿規定

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは、掲載希望月の前月7日の午後5時です(7日が月曜日の場合は、翌日の8日まで)。原則として掲載月の7日から翌月6日までのお知らせを掲載します。

公民館備付けの原稿用紙に団体名・サークル名を含めてお書きください。氏名にはふりがなをふってください。

会員募集は6カ月に一回掲載することができませんが、紙面の都合により翌月掲載とすることがありますので、ご了承ください。

公民館

年末年始のお知らせ

12月29日(金)~1月3日(水) この期間は、公民館全体がお休みになります。

また、2月分の会場調整会は、1月6日(土) 朝10時から行います。

参加申込書投入期限は 1月4日(木) 午後10時までです。

〈サークル訪問315〉 彩人形グループ

活動場所に到着すると、参加者の集中している顔が視界に飛び込んできた。

まとめ役の井上さんが対応してくださり、早速彩人形を見せていただくことに。彩人形はすべて和紙から作っていて、柄和紙を使用しているとのこと。その見た目から布のように感じてしまった。

人形は、15cmの大きさのものから、小指程度の大きさのものまで。季節の花、着物をかたどった人形もあれば、ハロウィンやクリスマスなど西洋的な雰囲気を感じさせる人形も。大きさ、テーマは参加者の自由だそう。齊木先生や井上さんが事前に作成した見本を参考

に作成。さらに型紙にも説明が書かれており、後々一人でも作れるような工夫がそこにあつた。サークルの時間だけでなく、自宅でも作成する人もいようである。

個人作業故、交流が少なそうに思える。だが、わからないところを聞く、といった一般的な指導風景だけではなく、見本で持ってきた人形のエピソード、使っている和紙の話、時には世間話と、終始和やかな雰囲気であった。

彩人形には顔に目鼻が無いものが多い。しかし、作り手の思いや、サークルの雰囲気がそうさせるのか、人形を見ていると優しく顔でこちらを眺めているように見えてくる。不思議なものである。

初めての方は、2時間半程度で作れる彩人形からスタートできるようです。

人形作り始めてみませんか?

日時 毎週木曜 9時~13時

場所 公民館

連絡先 井上(575) 0236

〈文・写真 川田 幸生(さちお)〉



真ん中は「直虎」!